

| 授業科目 | | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | | | |
|-----------|---|------|-----|------------|----|--|--|--|--|
| 理学療法評価法 C | | 2 | 30 | PT 2年 | 前期 | | | | |
| 担当教員 | | 授業形態 | | 主な講義室 | | | | | |
| 山本 悟 | | 講義 | | 402 教室／治療室 | | | | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価に必要となる主要な検査のうち、感覚、反射、筋緊張、痛みの各検査について、その目的や内容について説明できる。 ・模擬患者（学生）を対象に上記検査を正確かつ迅速に実施できる。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚検査① 感覚検査の定義、意義、分類、検査のポイント 2. 感覚検査② 表在感覚 3. 感覚検査③ 深部感覚 4. 感覚検査④ 複合感覚 5. 感覚検査⑤ 演習 6. 反射検査① 反射検査の定義、意義、分類、検査のポイント 7. 反射検査② 深部反射 8. 反射検査③ 表在反射、病的反射 9. 反射検査④ 演習 10. 筋緊張検査① 筋緊張検査の定義、意義、分類、検査のポイント、被動試験 11. 筋緊張検査② 演習 12. 痛みの検査① 痛み検査の定義、意義、分類、検査のポイント 13. 痛みの検査② 痛みの強度、性質、局在性、閾値、行動変容 14. 痛みの検査③ 演習 15. 総合演習 | | | | | | | | |
| 教科書 | <p>神経診察クローズアップ（医歯薬出版）</p> <p>随時資料を配布する。</p> | | | | | | | | |
| 成績評価法 | <p>期末テスト（筆記）により評価する。</p> <p>理学療法評価法 A・B・C・D の出席・成績は、それぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p> | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-----------|---|-----|------------|----|--|--|
| 理学療法評価法 D | 2 | 30 | PT 2年 | 前期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 川崎 裕史 | 講義 | | 402 教室/治療室 | | | |
| 目標 | 理学療法評価に必要となる主要な評価項目のうち脳卒中の評価について実習を交えながら学習する。 ①各評価の意義や目的を説明できる ②検査の実施方法を説明できる ③検査結果から症状を説明できる | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 片麻痺機能検査① 2. 片麻痺機能検査② 3. 脳神経検査① 4. 脳神経検査② 5. 協調運動の検査① 6. 協調運動の検査② 7. 前半の復習① 8. 前半の復習② 9. 姿勢反射・バランス評価① 10. 姿勢反射・バランス評価② 11. 高次脳機能評価① 12. 高次脳機能評価② 13. SIAS 14. 後半の復習① 15. 後半の復習② | | | | | |
| 教科書 | 神経診療クローズアップ（メディカルビュー） 図解 理学療法検査・測定ガイド（文光堂） 適時、資料配布する | | | | | |
| 成績評価法 | 期末試験、授業態度などから総合的に評価する 理学療法評価法 A・B・C・D の出席・成績は、それぞれ 1 科目として個別に取り扱う | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|------------------|---|-----|-------|----|--|--|
| 理学療法評価法実習 A | 1 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 山本 悟・島本 祐嗣・川崎 裕史 | 実習 | | 治療室 | | | |
| 目標 | 各評価項目の知識の再検討と整理を行い、適切に各評価が行える | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 理学療法評価概論 2. 上肢のMMT実習 3. 下肢のMMT実習 4. 体幹のMMT実習 5. MMT実習まとめ 6. 知覚検査・反射検査実習 7. 形態測定実習 8. ROM 実習（上肢） 9. ROM 実習（下肢） 10. ROM 実習（体幹・総括） 11. 片麻痺機能テスト実習(上肢) 12. 片麻痺機能テスト実習(下肢) 13. 筋緊張・疼痛検査実習 14. バランス評価実習① 15. バランス評価実習② | | | | | |
| 教科書 | 新・徒手筋力検査法 原著第9版（協同医書出版社） 図解 理学療法検査・測定ガイド（文光堂） | | | | | |
| 成績評価法 | 理学療法評価法実習は、A・B・C それぞれ個別に評価する。 実技試験にて評価する。 | | | | | |
| 備考 | 島本担当：概論、形態測定、ROM 山本担当：知覚検査、反射検査、筋緊張・疼痛検査 川崎担当：MMT、片麻痺機能テスト、バランス検査、 常に実習が可能な服装で授業に臨むこと | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-------------|---|-----|------------|----|--|--|
| 理学療法評価法実習 B | 1 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 島本 祐嗣 | 実習 | | 治療室／402 教室 | | | |
| 目標 | 代表疾患について症例レポートを作成することが出来る。 具体的な事例を通して理学療法評価の組み立てと考察し、ゴール設定が出来る。 | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 理学療法評価の流れ 2. レポート作成方法 3. 評価アセスメントの書き方 4. 各アセスメントの統合と解釈の仕方 5. 文献レビューの方法 6. 問題点の抽出、問題点の整理 (ICF) 7. 理学療法プログラムの立案 8. 症例検討 整形外科疾患のレポート作成① 9. 症例検討 整形外科疾患のレポート作成② 11. 症例検討 整形外科疾患のレポート作成③ 12. 症例検討 脳血管疾患のレポート作成① 13. 症例検討 脳血管疾患のレポート作成② 14. 症例検討 脳血管疾患のレポート作成③ | | | | | |
| 教科書 | 図解 理学療法検査・測定ガイド (文光堂) | | | | | |
| 成績評価法 | 理学療法評価法実習は、A・B・C それぞれ個別に評価する。 B は検討症例からの記述試験を学期末に実施し評価する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|----------|---|-----|--------|----|--|--|
| 日常生活活動 B | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 川崎 裕史 | 講義 | | 402 教室 | | | |
| 目標 | 疾患別 ADL について適切な評価を実施し、実際の訓練・指導方法を組み立てる 事ができる。 | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 大腿骨頸部骨折の ADL① 2. 大腿骨頸部骨折の ADL② 3. 脳卒中の ADL① 4. 脳卒中の ADL② 5. 脊髄損傷の ADL① 6. 脊髄損傷の ADL② 7. 脊髄損傷の ADL③ 8. 関節リウマチの ADL① 9. 関節リウマチの ADL② 10. 筋萎縮性疾患の ADL① 11. 筋萎縮性疾患の ADL② 12. 脳性麻痺の ADL① 13. 脳性麻痺の ADL② 14. パーキンソン病の ADL① 15. パーキンソン病の ADL② | | | | | |
| 教科書 | シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト 南江堂 その他、必要な資料を適宜配布する。 | | | | | |
| 成績評価法 | 期末試験、課題、授業態度などにより総合的に評価する。 日常生活活動 A と B はそれぞれ個別に評価する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目 | | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | | | |
|------------|---|------|-----|-----------|----|--|--|--|--|
| 日常生活活動実習 A | | 1 | 30 | PT2年 | 前期 | | | | |
| 担当教員 | | 授業形態 | | 主な講義室 | | | | | |
| 島本 祐嗣 | | 実習 | | 402教室/治療室 | | | | | |
| 目標 | 1 年次に修得した日常生活活動(ADL)を復習しつつ、より実践的な ADL への理学療法アプローチを計画できる。本授業では、ADL の評価、起居動作と移動移乗の介助が安全にでき、福祉機器・自助具、住環境整備を設定することが出来るようになる。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ADL の評価について Barthel Index と FIM 2. ADL の範囲と身の回りの動作 3. ADL 動作の分析 4. ADL における移動動作・歩行 5. 床上動作の介助 6. 車いす介助 7. 移乗動作 移乗の原則 8. 移乗動作 Scooting 9. 移乗動作 Under Arm Transfer 10. 移乗動作 Over Arm Transfer 11. 移乗動作 Sliding Board Transfer 12. 移乗動作 Standing Pivot Transfer 13. 移乗動作 複数人でのトランスファー 14. 移乗動作 複数人でのトランスファー 15. 移乗機器の操作 | | | | | | | | |
| 教科書 | 日常生活活動 ADL (医歯薬出版) | | | | | | | | |
| 成績評価法 | <p>日常生活活動実習 A と B はそれぞれ 1 科目として評価する。</p> <p>期末テストは安全で確実な ADL 介助が出来るかを実技試験で判定する。</p> | | | | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に使用する資料を適宜配布する。 | | | | | | | | |

| 授業科目 | | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | | | |
|------------|---|------|-----|-----------|----|--|--|--|--|
| 日常生活活動実習 B | | 1 | 30 | PT2年 | 後期 | | | | |
| 担当教員 | | 授業形態 | | 主な講義室 | | | | | |
| 島本 祐嗣 | | 実習 | | 302教室/治療室 | | | | | |
| 目標 | 理学療法士に必要となるボディーメカニクスと介助方法を学び、各疾患別の ADL で重要となる実技を体現することが出来る。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 1. ADL 介助に関わる支援機器 2. 片麻痺の ADL: グループワーク 3. 片麻痺の ADL: 発表 4. 脊髄損傷の ADL: グループワーク 5. 脊髄損傷の ADL: 発表 6. 切断・脳性まひ・関節リュウマチの ADL: グループワーク 7. 切断・脳性まひ・関節リュウマチの ADL: 発表 8. 神経筋疾患の ADL: グループワーク 9. 神経筋疾患の ADL: 発表 10. 高齢者の ADL: グループワーク 11. 高齢者の ADL: 発表 12. 高次脳機能障害の ADL: グループワーク 13. 高次脳機能障害の ADL 発表 14. 関節リュウマチの ADL: グループワーク 15. 関節リュウマチの ADL: 発表 | | | | | | | | |
| 教科書 | 日常生活活動学テキスト（南江堂） | | | | | | | | |
| 成績評価法 | 日常生活活動実習 A と B はそれぞれ 1 科目として評価する レポート課題・とグループワーク発表を総合して評価する | | | | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に使用する資料を適宜配布する。 ・教科書に沿った内容の講義と実習を組み合わせ実施する | | | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-----------|--|-----|--------|----|--|--|
| 義肢装具学 A | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 藤井 昭宏 | 講義 | | 402 教室 | | | |
| 目標 | 切断、義手、義足、上肢装具、体幹装具の基礎知識を説明できる。 義足および補装具の取り扱いや装着・操作方法を説明することができる。 | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 義肢学総論 2. 義手① 上肢切断について、幻肢について 3. 義手② 義手の部品、作成について 4. 装具学総論 5. 上肢装具① 肩装具、肘装具 6. 上肢装具② 対立装具、把持装具、手関節装具 7. 上肢装具③ 手指装具 8. その他の上肢装具 9. 中間試験 10. 義足① 下肢切断について 11. 義足② 正常歩行と義足歩行、義足歩行の分析 12. 義足③ 義足の部品について 13. 体幹装具① 頸椎、胸椎装具 14. 体幹装具② 腰椎、腰仙椎装具その他 15. 体幹装具③ 側弯装具、その他 | | | | | |
| 教科書 | 義肢装具のチェックポイント 第8版 (医学書院) 義肢装具テキスト 第2版 (南江堂) その他、必要に応じ資料を配布する | | | | | |
| 成績 評価法 | 中間試験 50%、期末試験 50% 義肢装具学 A・B の出席・成績は、それぞれ1科目として個別に取り扱う | | | | | |
| 備考 | 詳細な講義内容とスケジュールはオリエンテーション時に資料を配布し、説明する。 | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|---------|---|-----|--------|----|--|--|
| 義肢装具学 B | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 藤井 昭宏 | 講義 | | 302 教室 | | | |
| 目標 | 義肢学では義足の応用編および異常歩行について説明することができる。 装具学では下肢装具および靴型装具について説明することができる。 | | | | | |
| 授業の概要 | 16. 2年前期の復習、期末試験フィードバック、大腿義足について① 17. 大腿義足について② 18. 大腿義足について③ 19. 下肢装具① 短下肢装具 20. 下肢装具② 長下肢装具 21. 下肢装具③ 免荷装具 22. 下肢装具④ 骨折装具 23. 下肢装具⑤ 小児疾患に対する下肢装具 24. 下肢装具⑥ その他の下肢装具 25. 中間試験 26. 義足⑦ 膝義足、股義足、足根中足義足、下腿義足、サイム義足 27. 義足⑧ 義足装着訓練、義足と断端のケア 28. 靴型装具① 足部の構造とアーチ機能について 29. 靴型装具② 靴型装具の基本構造と補正について 30. 靴型装具③ 疾患別靴型装具 | | | | | |
| 教科書 | 義肢装具のチェックポイント 第8版 (医学書院) 義肢装具テキスト 第2版 (南江堂) その他、必要に応じ資料を配布する | | | | | |
| 成績評価法 | 中間試験 50%、期末試験 50% 義肢装具学 A・B の出席・成績は、それぞれ1科目として個別に取り扱う | | | | | |
| 備考 | 詳細な講義内容とスケジュールはオリエンテーション時に資料を配布し、説明する。 | | | | | |

| 授業科目 | | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | | | |
|--------|--|------|-----|---------|----|--|--|--|--|
| 物理療法 A | | 2 | 30 | PT2年 | 前期 | | | | |
| 担当教員 | | 授業形態 | | 主な講義室 | | | | | |
| 島本 祐嗣 | | 講義 | | 402/治療室 | | | | | |
| 目標 | 物理療法に必要な基礎知識と、物理エネルギーが生体に及ぼす効果と、物理療法の適応と禁忌を覚え、また安全に機器を扱えるようになる。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 物理療法の概要(定義・歴史・分類) 2. 物理療法の生理学的基礎 3. 物理療法の禁忌と適応 4. 溫熱療法の概要 5. ホットパック・パラフィン浴 6. 溫熱療法実習 7. エネルギー変換療法の概要 8. 極超短波療法・超短波療法 9. 超音波療法 10. エネルギー変換療法実習 11. 寒冷療法の概要 12. 伝導冷却法・対流冷却法・気化冷却法 13. 寒冷療法実習 14. グループワーク 15. グループワーク結果の発表 | | | | | | | | |
| 教科書 | シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト(南江堂) | | | | | | | | |
| 成績評価法 | 物理療法 A と B はそれぞれ 1 科目として評価する 期末テストの点数を中心に、小テストの点数・グループワーク発表を総合して評価する | | | | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に使用する資料を適宜配布する。 ・小テストは教科書の各章の最後にあるものを、次の授業と初めに実施する | | | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|--------|--|-----|---------|----|--|--|
| 物理療法 B | 2 | 30 | PT2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 島本 祐嗣 | 講義 | | 402/治療室 | | | |
| 目標 | 物理療法に必要な基礎知識と、物理エネルギーが生体に及ぼす効果と、物理療法の適応と禁忌を覚え、また安全に機器を扱えるようになる。 | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 電気刺激療法の概要 2. 疼痛コントロール: 経皮的電気神経刺激(TENS) 3. 運動の制御: 神経筋電気刺激(NMES) 4. 電気刺激療法実習 5. 光線療法の概要 6. レーザー療法・紫外線療法・赤外線療法 7. 光線療法実習 8. 力学機器を用いた治療法 9. 牽引療法・CPM 10. 力学機器を用いた治療法実習 11. 水治療法の概要 12. 湧流浴・ハバードタンク・プール療法 13. 水治療法実習 14. グループワーク 15. グループワーク発表 | | | | | |
| 教科書 | シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト(南江堂) | | | | | |
| 成績評価法 | 物理療法 A と B はそれぞれ 1 科目として評価する 期末テストの点数を中心に、小テストの点数とグループワーク発表を総合して評価する | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に使用する資料を適宜配布する。 ・小テストは教科書の各章の最後にあるものを、次の授業と初めに実施する | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|----------|--|-----|--------------|----|--|--|
| 運動療法概論 B | 2 | 30 | PT 2年 | 前期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 講義室 | | | |
| 加藤 善範 | 講義 | | 402 教室/機能訓練室 | | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動療法を実施するために医学的根拠に基づいた適切な方法を説明できる。 ・症例に適切な運動療法のプログラムを立てることができる。 | | | | | |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と呼吸 2. 呼吸訓練 3. 運動と循環 4. 全身調整訓練 5. 運動と代謝 6. 持久力訓練 7. 協調性運動、神経筋再教育 8. 協調性訓練 9. 体幹機能障害に対する体操 10. 体幹機能障害に対する体操 11. 協調性障害に対する体操 12. 協調性障害に対する体操 13. 末梢循環障害に対する体操 14. 肩関節障害に対する体操 15. 疾患別運動療法概論 | | | | | |
| 教科書 | <p>シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト（南江堂）</p> <p>その他、随時資料を配布する。</p> | | | | | |
| 成績評価法 | <p>期末試験により評価する。</p> <p>運動療法概論 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p> | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|--------|--|-----|------------------|----|--|--|
| 運動療法 I | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 講義室 | | | |
| 友原 望美 | 講義 | | 402 教室/治療室/機能訓練室 | | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害をはじめとした脳損傷と運動障害との関係について理解し説明できる。 ・中枢神経障害の運動療法を行う意義について理解し、その方法を説明できる ・中枢神経障害の評価に基づくトレーニング方法の立案ができる。 | | | | | |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系理学療法の基礎知識 2. 脳損傷の病態と回復、リハビリテーションの流れについて 3. 脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴と評価 4. 脳血管障害後片麻痺患者の運動療法（機能訓練、車椅子・装具） 5. 脳血管障害後片麻痺患者の運動療法（運動学習） 6. 脳血管障害後片麻痺患者の運動療法（基本動作、ADL 動作） 7. 脳血管障害後片麻痺患者の運動療法（歩行） 8. 脳血管障害における合併症と運動療法 9. パーキンソン病の病態 10. パーキンソン病の運動療法 11. 運動失調の病態 12. 運動失調の運動療法 13. その他中枢神経系疾患の病態 14. その他中枢神経系疾患の運動療法 15. 症例検討 | | | | | |
| 教科書 | シンプル理学療法シリーズ 中枢神経障害理学療法学テキスト（南江堂） その他、随時資料を配布する。 | | | | | |
| 成績評価法 | 期末試験により評価する。 運動療法 I、II の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-------|--|-----|------------|----|--|--|
| 運動療法Ⅱ | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 山本 悟 | 講義 | | 402 教室／治療室 | | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・主要な整形外科疾患の運動療法について、その目的や内容が説明できる。 ・模擬患者（学生）を対象に基本的運動療法が適切に実施できる。 | | | | | |
| 授業の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的運動療法① 2. 基本的運動療法② 3. 骨折の運動療法① 4. 骨折の運動療法② 5. 骨折の運動療法③ 6. 変形性関節症の運動療法① 7. 変形性関節症の運動療法② 8. 変形性関節症の運動療法③ 9. 変形性関節症の運動療法④ 10. 肩関節周囲炎の運動療法 11. 腰部疾患の運動療法① 13. 腰部疾患の運動療法② 14. 鞭帶損傷の運動療法 15. 関節リウマチの運動療法 | | | | | |
| 教科書 | 隨時資料を配布する。 | | | | | |
| 成績評価法 | <p>筆記試験にて評価を行う。 運動療法Ⅰ、Ⅱの出席・成績は、それぞれ1科目として個別に取り扱う。</p> | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | | | |
|-------|---|------|-----|--------|----|--|--|--|--|
| | 地域リハビリテーション論 | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | | | |
| | 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | | | |
| | 松原 早苗 | 講義 | | 402 教室 | | | | | |
| 目標 | ①地域リハビリテーションの概要と理学療法士の役割を説明できる。 ②地域で生活する老年期の人々の身体的特徴を説明できる。 ③介護予防における地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 地域リハビリテーションとは①地域リハを学ぶために考えたいこと 2. 地域リハビリテーションとは②症例紹介・概念 3. 介護保険制度 ①理念と仕組み 4. 介護保険制度 ②サービスの種類 5. 介護保険制度 ③リハビリテーション 6. 介護保険制度 ④介護予防 7. 地域包括ケアシステムとは 8. 地域で暮らす人々 ①老年症候群（フレイルとサルコペニア） 9. 地域で暮らす人々 ②認知症 10. 地域で暮らす人々 ③ロコモティブシンドローム 11. 地域で暮らす人々 ④その他の疾患 12. 地域課題を考える①症例検討 13. 地域課題を考える②通いの場を創造してみよう（GW） 14. 地域課題を考える③発表 15. まとめ | | | | | | | | |
| 教科書 | 地域理学療法学（羊土社） その他、必要な資料を適宜配布する。 | | | | | | | | |
| 成績評価法 | 期末試験、課題、授業態度などにより総合的に評価する。 | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |

| | 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | | | |
|-------|---|------|-----|--------|----|--|--|--|--|
| | 生活環境論 | 2 | 30 | PT 2年 | 後期 | | | | |
| | 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | | | |
| | 松原 早苗 | 講義 | | 402 教室 | | | | | |
| 目標 | ①住環境整備のために理学療法士として必要な知識（社会制度、家屋改修・福祉用具の導入のポイント）を説明できる。 ②障害モデルごとの住環境整備のポイントを説明できる ③福祉住環境コーディネーター2級検定試験に合格できる | | | | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 生活環境整備における理学療法士の役割 2. 住環境整備の基本技術①段差・床材 3. 住環境整備の基本技術②手すり 4. 住環境整備の基本技術③建具・スペース 5. 住環境整備の基本技術④照明・冷暖房など 6. 生活行為別整備の手法①外出 7. 生活行為別整備の手法②屋内移動 8. 生活行為別整備の手法③排泄 9. 生活行為別整備の手法④入浴 10. 生活行為別整備の手法⑤その他 11. 建築図面 12. 福祉用具①起居・就寝・移動 13. 福祉用具②排泄・入浴 14. 福祉用具③視覚障害・聴覚障害 15. 試験対策・まとめ | | | | | | | | |
| 教科書 | 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト（東京商工会議所編） その他、必要な資料を適宜配布する。 | | | | | | | | |
| 成績評価法 | 期末試験、授業態度などにより総合的に評価する。 | | | | | | | | |
| 備考 | 11月25日（日）に実施される、福祉住環境コーディネーター検定試験2級（学外、宇都市内）を受験します。 | | | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-------------|--|-----|--------------|------|--|--|
| 臨床実習セミナー I | 1 | 30 | PT 2年 | 前・後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| 島本 祐嗣・加藤 善範 | 演習 | | 402 教室、機能訓練室 | | | |
| 目標 | <p>2 年次臨床実習前後の準備や報告会および振り返りを通じて、具体的な理学療法プログラムを検討し、凝縮ポートフォリオにまとめ、説明することができる。</p> <p>3年次臨床実習に向けての準備および OSCE に向けての練習を通じて、具体的な理学療法評価方法について検討し、説明することができる。</p> | | | | | |
| 授業の概要 | <p>2 年次臨床実習に向けた準備(臨床実習ゼミ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. クリニカル・クラークシップについて 3. コミュニケーションについて 4. 院内感染・医療事故防止について 5. 実習中の個人情報保護について 6. 各種実習関連書類の書き方 7. 各種実習関連書類作成 8. 実習直前ゼミ 9. 個別見学について 10. ステーション見学について 11. OSCE 運営について 12. 対象疾患について(10 症例) 13. OSCE 見学 14. OSCE 見学 15. OSCE 見学 | | | | | |
| 教科書 | 随時各種資料を配布する | | | | | |
| 成績評価法 | 臨床実習報告会及び課題レポートにより評価する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-----------------|---|-----|-------|----|--|--|
| 臨床実習 A | 1 | 45 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 主な講義室 | | | |
| PT 教員および臨床実習指導者 | 実習 | | なし | | | |
| 目標 | <p>クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、</p> <p>①実習前に1年次・2年次前期に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。②臨床現場で求められる常識的態度や、責任のある行動をとることができる。意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができる。③対象者（患者様・利用者様）とコミュニケーションをとることができる。④臨床現場において疾患や障害を自己の目で観察できる。（見学）⑤理学療法評価、治療的介入で見学した内容について、いくつか模倣できる（模倣前期）⑥リスク管理に対する意識を養うとともに衛生・安全面の配慮ができる。⑦個人情報保護、守秘義務等、医療人に必要な倫理観に基づいて行動ができる。⑧実習先である医療機関・施設の機能・役割を説明できる。⑨各医療職の役割とチーム医療について説明できる。⑩臨床実習ポートフォリオ（資料集）を作成し、その内容をまとめることができる。⑪⑫で経験した内容を学内で再学習し、専門用語を用いて報告できる。⑬理学療法士を目指す目的意識を一層強固なものにすることができる。</p> | | | | | |
| 授業の概要 | <p>各臨床実習施設において臨床参加をしながら、以下の項目を経験する</p> <p>I 職業人としての習慣・態度・業務理解（主に情意領域）</p> <p>II 基本的な理学療法の実施過程の体験</p> <p>1 理学療法評価・治療の見学および体験（主に精神運動領域）</p> <p>2 理学療法評価・治療の選択（主に認知領域） ポートフォリオ内で整理し記載</p> <p>III 理学療法士観の育成（情意領域）</p> | | | | | |
| 教科書 | 2年次臨床実習 A ガイドブックを実習前に配布予定 | | | | | |
| 成績評価法 | 実習後に単位認定試験（口頭試問）を行い評価する。 | | | | | |
| 備考 | 提出課題：臨床実習チェックリスト、臨床実習 A ポートフォリオ | | | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 時間数 | 対象学年 | 学期 | | |
|-------|--|-----|--------------|----|--|--|
| 運動学実習 | 1 | 30 | PT 2年 | 後期 | | |
| 担当教員 | 授業形態 | | 講義室 | | | |
| 加藤 善範 | 実習 | | 402 教室/機能訓練室 | | | |
| 目標 | • 身体運動の基本となる歩行動作について観察し、記述により説明することができる。 | | | | | |
| 授業の概要 | 1. 人体解剖学見学実習（筋） 2. 人体解剖学見学実習（筋） 3. 歩行の基礎 4. 10m 歩行測定 5. 正常歩行における下肢と体幹の役割 6. 歩行における関節運動と機能 7. 正常歩行まとめ① 8. 正常歩行まとめ② 9. 代表的な異常歩行とその原因 10. 逸脱動作（足関節・膝関節） 11. 逸脱動作（股関節・骨盤・体幹） 12. 逸脱歩行観察の実際① 13. 逸脱歩行観察の実際② 14. 逸脱歩行まとめ①（グループ学習） 15. 逸脱歩行まとめ②（症例観察） | | | | | |
| 教科書 | 教科書：観察による歩行分析（医学書院） その他、随時資料を配布する。 | | | | | |
| 成績評価法 | (1・2) レポートにより評価する。 (3～15) 期末試験により評価する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |